笠松競馬場

笠松競馬場の誕生は昭和5年(1930年)頃、「笠松競馬倶楽部」を設立し、競馬場設置を企画したことに端を発しています。中津川競馬場(中津川市)から笠松への移転により、昭和9年(1934年)東海一を誇る笠松競馬場が誕生しました。平成28年度(2016年度)には場内に大型ビジョンが完成しました。愛称を募集した結果笠松町の自然を代表する清流木曽川をイメージし、誰もが親しみをもてるように「清流ビジョン」に決定しました。
名鉄笠松駅や国道22号線が近いため多くのファンが訪れます。

笠松競馬場の敷地面積は、298,000㎡、厩舎面積は13000㎡です。本馬場は右回りに1周が1100m、幅員20m、高低差1.92m、砂壁石少が100mの原土で敷きつめられています。
観覧スタンドの席数は3300席で「特別観覧席」「ユーホール」「ドリームルーム」などは総収容人員は16000人です。

笠松競馬は全国的にも有名で「名手、名馬の里、ドリームスタジアム笠松競馬」と呼ばれています。右上の写真は芦毛の怪物と呼ばれた名馬「オグリキャップ」です。
昭和62年にデビューし生涯成績32戦22勝を挙げて引退しました。
引退後は種牡馬となり、平成22年(2010年)に亡くなると競馬場には功績をあたえたブロンズ像が建てられています。